

## 小児看護学における医療安全教育の課題に関する文献検討

沖本 克子 網野 裕子  
(岡山県立大学保健福祉学部看護学科)

**要旨：** 本研究では、小児看護学における医療安全教育に焦点を当てて文献検討を行い、医療安全教育の概観と教育上の課題を明らかにすることを目的とした。「小児看護」「小児看護学」「事故」「事故防止」「インシデント」「ヒヤリハット」「リスク」のキーワードを用いて、医学中央雑誌 Web 版、CiNii、PubMed、Science Direct を検索した。さらに、対象文献の引用文献をハンドサーチした。その結果、小児看護学における医療安全教育に関する文献は、国内文献 38 件、海外文献 0 件であった。医療安全教育については、「講義・演習・臨地実習の工夫」「医療安全に関する学生の認識」「学生の医療安全に関する看護師の認識」「ヒヤリハット等の事例の分析」「実習施設等の環境」について記述されていた。小児看護学に特化した医療安全教育プログラムとその効果を測定する指標を開発・実施することなどが、小児看護学における医療安全教育上の課題として示唆された。

**キーワード：** 小児看護学 医療安全教育 インシデント ヒヤリハット

### I はじめに

1999 年に、看護師が関与した「横浜市立大学医学部附属病院における患者取り違え事故<sup>1)</sup>」と「都立広尾病院における消毒液誤注射事故<sup>2)</sup>」が相次いで発生し、社会に大きな衝撃が走った。看護基礎教育課程においても医療安全教育に危機感をもち、様々な取り組みが行われてきた。20 年が経過し、この間にどのような取り組みがなされ、それがどのような効果をもたらし、どのような課題があるのかを明らかにすることは、将来の医療安全教育にとって有意義なことである。

しかし、小児看護学においては、子どもの発達段階を考慮しなければならないため、小児看護学に特化した医療安全教育が必要である。そこで、本研究では、小児看護学における医療安全教育に焦点を当て

て文献検討を行い、医療安全教育の内容と教育上の課題を明らかにすることを目的とした。

### II 研究方法

#### 1. 用語の操作上の定義

本研究では、「医療安全教育」を、川村<sup>3)</sup>の見解を参考に、「看護基礎教育課程において、提供する看護のどこに患者の傷害につながる危険があるかを認識させ、逸脱すればどのような傷害が患者に生じるのかを教え、医療安全マインドを養成すること」とした。

なお、本研究では「小児」と「子ども」を同義として扱い、両者を使用する。

#### 2. 対象文献の抽出

本研究の対象は、小児看護学における医

療安全教育に関連する内容を扱った研究論文である。海外文献については、PubMedを用い、収載誌発行年を限定せずに検索した(2019年1月)。用いた検索時のキーワードは、「pediatric nursing」「student」「error」「incident」「near miss」であった。その結果、計20文献が抽出されたが、小児看護学における医療安全教育に関する文献は0件であった。同様に、Science Directを用いて検索したが、小児看護学における医療安全教育に関する文献は0件であった。日本文献は、医学中央雑誌 Web版を用いて、収載誌発行年は限定せず原著論文に限定して検索した(2019年1月)。検索時のキーワードは、「小児看護」「小児看護学」「事故」「防止」「ヒヤリハット」「リスク」を用いた。その結果、計136文献が抽出された。重複文献を除外し、タイトルと抄録の内容を確認し、①医療安全を一義的に扱っていない、②研究対象が小児看護学に関することではない、③感染に関する研究内容であることの要件を満たす研究論文を除外した。その結果、該当文献は34文献であった。さらにCiNiiを用いて検索し、医学中央雑誌 Web版と重複していない新たな文献2件を追加した結果、該当文献は36文献となった。次に、36文献の全文を精読し、全文の引用文献をハンドサーチし、除外基準に非該当の2文献を追加した38文献を対象とした。

### 3. 分析方法

小児看護学における医療安全教育に関する38文献から、医療安全教育の内容を抽出し、その類似性に基づいて分類した。その結果に基づき、小児看護学における医

療安全教育の課題を検討した。全過程において、共同研究者とともに検討し分析の妥当性を高めた。

### 4. 倫理的配慮

分析過程において、可能な限り原文を抽出し、著者の意図に忠実であるよう努めた。

## III 結果

以下の( )の数字は、分析対象文献一覧(表1)の文献番号を示す。

### 1. 対象文献の概要

文献数の推移は、1970年代に2件、1980年代に1件、1990年代に2件、2000年代には24件、2010年代には9件と推移していた。医療安全教育の内容はその類似性に基づき、講義・演習・臨地実習の工夫(14件)、医療安全に関する学生の認識(9件)、学生の医療安全に関する看護師の認識(2件)、ヒヤリハット等の事例の分析(9件)、実習施設等の環境(2件)に分類された。

### 2. 講義・演習・臨地実習の工夫

講義の工夫については、小児看護学実習中に起きた看護学生の事故報告事例(ベッドからの転落)を用いた講義(7)、作成した転倒・転落のビデオを視聴し、危険とその対応を考えさせる講義(9)が行なわれていた。

演習の工夫については、チャイルド・ビジョンを用いた子どもの疑似体験(1、4、5)、ペーパー事例を用いたチャイルド・ビジョンによる子どもの疑似体験(3)、乳幼児の療養環境を再現し起こりやすい事故を検討する演習(8)、不慮の事故に関するゼミナール(14)が行われていた。

表1 分析対象文献一覧

| 番号            | 著者     | 収録   | タイトル   | 出版データ                                 |
|---------------|--------|------|--|---------------------------------------|
| 講義・演習・臨地実習の工夫 |        |      |  |                                       |
| 1             | 藤堂美由紀  | 2018 | 看護学生にチャイルドビジョン体験を行った教育効果：入院中の幼児の事故防止のために                     | キャリアと看護研究, 8 (1), 44-53               |
| 2             | 藤堂美由紀  | 2017 | 小児看護学実習用幼児危険予測・事故防止対策評価シートの作成                                | キャリアと看護研究, 7 (1), 12-20               |
| 3             | 二宮恵美   | 2012 | 入院している幼児の事故防止を理解するための教育方法—ペーパー事例と視野体験を比較して—                  | 日本看護学会論文集・看護教育, 42, 150-153           |
| 4             | 井手紀子他  | 2010 | チャイルド・ビジョンを用いた幼児の視野体験による学び                                   | 日本看護学会論文集・小児看護, 40, 144-146           |
| 5             | 高橋衣    | 2009 | 「乳幼児期の事故防止」に関する授業の工夫とその検討—《子ども体験》演習を取り入れて—                   | 足利短期大学研究紀要, 29, 69-77                 |
| 6             | 馬場口喜子他 | 2009 | 小児看護学実習における事故防止教育の現状   | 京都府立医大看護紀要, 18, 97-100                |
| 7             | 石館美弥子  | 2009 | 「小児看護学実習の事故報告事例」の活用と看護学生の安全意識                                | 湘南短期大学紀要, 20, 11-16                   |
| 8             | 豊口妙子他  | 2009 | 小児看護学実習をイメージ化した具体的な演習方法の検討—演習モデル「発達段階別環境整備」の学習効果—            | 日本看護学会論文集・看護教育, 39, 66-68             |
| 9             | 宮野恵美   | 2009 | 入院している小児の危険に関する学生の認識—ベッドからの転落防止に関して—                         | 日本看護学会論文集・小児看護, 39, 239-241           |
| 10            | 長尾嘉子他  | 2008 | 小児の発達段階に応じた事故の特徴を理解するための授業方法—シミュレーション教材を用いて—                 | 日本看護学会論文集・小児看護, 38, 182-184           |
| 11            | 狩野由紀子他 | 2008 | 小児看護学実習における転倒・転落事故防止への取り組み—スコアシートの信頼性・妥当性の検証—                | 日本看護学会論文集・小児看護, 38, 56-58             |
| 12            | 黒川美恵子  | 2008 | 小児看護学実習における転倒・転落事故防止への取り組み—「スコアシート」を用いた事故防止策の指導を実施して—        | 日本看護学会論文集・看護教育, 38, 210-212           |
| 13            | 宮口恵美子他 | 2007 | 視覚教材を用いた医療事故防止教育—4コママンガを用いた実習前ディスカッションの効果—                   | 日本看護学会論文集・看護教育, 37, 470-472           |
| 14            | 宮本祐子   | 2007 | 看護学生の小児の不慮の事故に対する認識の変化について—ゼミナール学習の前後を比較して—                  | 日本看護学会論文集・小児看護, 37, 280-281           |
| 15            | 仁尾かおり他 | 2005 | 小児看護学実習における“子どもの安全をまもる”教育 「転倒・転落の事故防止」の教材開発と学習効果             | 国立看護大学校研究紀要, 4 (1), 43-52             |
| 医療安全に関する学生の認識 |        |      |  |                                       |
| 16            | 廣渡加奈子他 | 2016 | 小児看護学実習前の学生が認識する小児病棟における危険因子—学生のレディネスを踏まえた医療安全教育の基礎的資料—      | 産業医科大学雑誌, 38 (3), 251-259             |
| 17            | 辻野睦子他  | 2016 | 看護学生の学年による小児療養環境における危険認知レベルの相違—眼球運動測定器を用いた検証—                | 京都府立医大看護紀要, 26, 19-28                 |
| 18            | 山下麻実他  | 2014 | 入院時のベッド転落を防ぐための基礎教育終了時の看護学生の安全対策                             | 日本看護学会論文集・看護教育, 44, 62-65             |
| 19            | 鈴木真美子他 | 2013 | 臨床看護実習で看護学生が小児の清潔援助を実施する際の安全意識                               | 小児看護, 36 (2), 245-250                 |
| 20            | 貝瀬澄子他  | 2006 | 看護学生の小児看護における医療事故防止の理解—卒業前の看護学生を対象とした実態調査—                   | 日本看護学会論文集・小児看護, 36, 247-249           |
| 21            | 川田美由紀  | 2005 | 保育所実習前後における事故に対する認識  | 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌, 1, 106-109 |
| 22            | 宮崎留美子  | 2001 | 小児看護学実習における安全・事故防止に関する効果的学習の検討—学生の気付きと指導の受けとめ方に焦点をあてて—       | 東京医科大学病院看護研究集録, 21, 76-81             |
| 23            | 湯川倫代他  | 1983 | 小児看護学における安全についての検討 (第3報)—学習以前と学習過程 (保育園実習中) で学生が体験した児の事故の比較— | 愛知県立看護短期大学雑誌, 15, 43-50               |
| 24            | 湯川倫代他  | 1977 | 小児看護学における安全についての検討 (第2報)—小児看護学臨床実習中の看護技術からみた安全性—             | 愛知県立看護短期大学雑誌, 8, 57-65                |
| 25            | 湯川倫代他  | 1975 | 小児看護学における安全についての検討—患児の安全に関して学生の認識と実態について—                    | 愛知県立看護短期大学雑誌, 6, 57-63                |

表1 分析対象文献一覧(続き)

| 学生の医療安全に関する看護師の認識 |         |      |   |                                     |
|-------------------|---------|------|---|-------------------------------------|
| 26                | 山下麻実他   | 2013 | 乳幼児の転落事故のリスクファクターに関する認識の検討—看護師と看護学生の比較から—                   | 日本小児看護学会誌, 22 (3), 42-48            |
| 27                | 大久保ひろ美他 | 2008 | 点滴施行中の小児を受け持つ学生に対する臨地実習指導体験をもつ看護師の認識                        | 日本小児看護学会誌, 17 (2), 39-44            |
| ヒヤリハット等の事例の分析     |         |      |   |                                     |
| 28                | 小泉 麗他   | 2007 | 小児看護学実習における「ヒヤリハット」体験と学生が認識した要因の分析                          | 日本小児看護学会誌, 16 (1), 17-24            |
| 29                | 井口佳志子他  | 2006 | 小児看護学実習におけるインシデント・アクシデントの実態(その1)                            | 東京医科大学看護専門学校紀要, 16 (1), 49-54       |
| 30                | 遠藤芳子他   | 2005 | 看護学生の小児看護学実習におけるインシデントの実態と教育上の課題                            | 山形保健医療研究, 8, 65-72                  |
| 31                | 井口佳志子他  | 2004 | 小児看護学実習における学習効果とインシデント・アクシデントの実態(その1)                       | 東京医科大学看護専門学校紀要, 14 (1), 21-32       |
| 32                | 大塚香他    | 2003 | 小児看護学実習における学生の「ヒヤリ・ハット」体験の実態—学生の質問紙調査の分析より—                 | 東邦大学医学部看護学科・東邦大学医療短期大学紀要, 17, 46-55 |
| 33                | 奥山朝子他   | 2003 | 小児看護学実習中に事故を起こした学生の体験                                       | 日本看護学会論文集・看護教育, 34, 12-14           |
| 34                | 赤川晴美    | 1999 | 小児看護学実習におけるケアの安全性(第3報)—事故範囲外の事例分析から小児の特殊性をふまえた指導上の指針を取り出して— | 福井県立大学看護短期大学部論集, 9, 53-62           |
| 35                | 赤川晴美    | 1997 | 小児看護学実習におけるケアの安全性(第2報)—事故事例の分析から指導上の指針を取り出して—               | 福井県立大学看護短期大学部論集, 5, 21-34           |
| 36                | 赤川晴美    | 1996 | 小児看護学実習におけるケアの安全性(第1報)—事故事例の分析から指導上の指針を取り出して—               | 福井県立大学看護短期大学部論集, 3, 59-68           |
| 実習施設等の環境          |         |      |   |                                     |
| 37                | 伊藤久美他   | 2002 | 看護系大学の小児看護学実習受け入れ施設における倫理的配慮                                | 日本小児看護学会誌, 11 (2), 7-12             |
| 38                | 伊藤久美他   | 2001 | 看護系大学における小児看護学実習の実態—安全対策, 教員の負担や困難, 実習評価について—               | 日本看護学教育学会誌, 10 (4), 11-19           |

臨地実習に関する工夫については、実習オリエンテーション時に転落事故等の4コマ漫画を用いて事故の要因と予防に関するディスカッションをさせる(13)、実習初日に、開発した「転倒・転落の事故防止」のビデオ学習と、実習施設と同じベッドを用いたベッド操作の演習(15)が行われていた。また、点滴静脈内注射を行っている幼児の危険予測・事故防止対策評価シート(2)、病棟の見取り図にヒヤリハット事例を記述するシート(6)、小児用転倒・転落アセスメントスコアシート(11、12)が作成され、実習中に使用されていた。

### 3. 医療安全に関する学生の認識

小児療養環境を想定した場において自分自身も危険因子になり得ること、すなわち、受け持ち患児とうまく関われないなどの小児看護実践への学生自身の不安は危険因子となることを、学生は認識していたことが明らかにされていた(16)。また、小児療養環境を想定した場において、学生は、情報収集をしようとする眼球の動き、子どものベッド転落を予期する眼球の動きなどをしてきたことが明らかにされていた(17)。

卒業前の看護学生は、ベッド転落の予防について子どものベッド柵へのよじ登り

による転落についてのリスクが認識できていなかったことが明らかにされ (17)、小児に多い転落事故を学生は予測できるが、発達段階に応じた事故の予測力は低いこと、小児に起こりやすい事故について実習で経験した学生の理解が高いことが明らかにされていた (20)。また、実習開始1～3日目と実習終了時の患児の安全に関する認識と実際 (24) や、学生が実習中に清潔援助を実施した際の安全の意識 (19、25) が明らかにされていた。その他、保育所実習前後における事故に対する認識 (21)、保育所実習中の「ドキッとした」体験 (23) が明らかにされていた。

#### 4. 学生の医療安全に関する看護師の認識

乳幼児の転落事故において看護師は看護学生と比較して多くのリスクファクターを認識していること (26)、点滴施行中の小児を受け持つ学生に対して臨地実習指導体験をもつ看護師は臨床でなければ学べない安全な点滴管理について学んでほしいと認識していること (27) が明らかにされていた。

#### 5. ヒヤリハット等の事例の分析

ヒヤリハット事例の分析 (28、29、30、31、32) が行われ、学生がヒヤリハットした場面では「ベッドからの転落の危険性」が最も多かったこと (28、29、30、31) が明らかにされていた。学生が認識したヒヤリハットの原因は、①安全に対する認識の甘さ、②患児の行動に対する予測困難、③安全に対する注意の欠落などであること (28、29、31、32) が明らかにされていた。

また、小児看護学実習中の事故事例 (35、

36) と事故範疇外の事例 (34) の分析から指導上の指針を取り出す取り組みや、小児看護学実習中に事故を起こした学生の事故後の体験の分析 (33) が行われていた。

#### 6. 実習施設等の環境

実習受け入れ施設の安全対策は、事故防止のためのオリエンテーション、学生の行動に留意し状況を見ながら注意をする、学生が事故を起こした時の対応策の決定などであった (37)。

看護系大学の安全対策は、学生の行動や傾向に留意、実習前オリエンテーションの実施、実習中の事故に備え保険加入、学生が関わる医療事故の対応策の決定などであった (38)。

## IV 考察

小児看護学における医療安全教育に関する研究は、対象論文 38 件のうち 23 件が 2000 年代に行われていた。1999 年に相次いで発生した看護師が関与した医療事故により、医療安全教育の重要性が認識されたことが背景にあると思われる。しかし、2010 年代にはいると研究論文数は激減している。小児看護学における医療安全教育には課題が存在するため、さらなる研究の蓄積が望まれる。

小児看護学における医療安全教育は、講義、演習、臨地実習を通して、小児看護学の特徴である子どもの発達段階を考慮して行われていた。しかし、どの教育も単発的で、松田<sup>4)</sup>が紹介しているようなプログラム化されたものはまだ報告されていない。また、介入後の評価を、卒業前に評価した文献 (18、20) もあるが、多くは介入

直後であり、さらに感想などの主観的な評価にとどまっているものが多い。以上のことから、小児看護学に特化した医療安全教育プログラムとその効果を測定する指標を開発・実施することが望まれる。

松澤<sup>5)</sup>が述べているように、子どもの発達段階を踏まえた思考・行動を、子どもとかわる経験の少ない学生が学習することは簡単ではない。同様に、子どもの発達段階を考慮した事故防止を学生が学習することは容易ではない。学生は講義・演習や実習前オリエンテーションを通して学習した事故予防を臨床実習で実践することになるが、その際に「点滴静脈内注射を行っている幼児の危険予測・事故防止対策評価シート」(2)や「小児用転倒・転落アセスメントスコアシート」(12、13)などのアセスメントツールを使用することは、何が危険なのかを具体的にアセスメントすることができ有効であると考えられる。加えて、教員が、学生の傾向と患児の状況を合わせて把握し、起こり得る危険を予測した注意を学生に喚起していく<sup>6)</sup>ことが重要である。しかし、臨地実習における教員や指導者の学生への関わりに焦点を当てた研究(26、27、34、35、36)は行われているが、ある一場面における学生への関わりに焦点を当てているにすぎず、隣地実習における教員や指導者の医療安全に関する教育的な関わりは明らかにされていないので、今後の研究の積み重ねが望まれる。

## V 結論

1. 講義、演習、臨地実習を通して、子どもの発達段階を考慮した医療安全教育

が行われていた。

2. 小児看護学に特化した医療安全教育プログラムとその効果を測定する指標を開発・実施することが、小児看護学における医療安全教育上の課題として示唆された。

3. 臨地実習における教員や指導者の学生への関わりに焦点を当てた研究の積み重ねが課題として示唆された。

本研究において、開示すべき利益相反は存在しない。

## 引用文献

- 1) 横浜市立大学医学部附属病院の医療事故に関する中間とりまとめ：  
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/kaikaku/BK3/bk3.html> (2019年1月30日)
- 2) 都立広尾病院の医療事故に関する報告書—東京都病院経営本部：  
<http://www.byouin.metro.tokyo.jp/hokoku/hokoku/documents/hiroojiko.pdf#search=%27%E9%83%BD%E7%AB%8B%E5%BA%83%E5%B0%BE%E7%97%85%E9%99%A2+%E6%B6%88%E6%AF%92%E6%B6%B2%27> (2019年1月30日)
- 3) 川村治子(2007)：求められる医療安全教育とは，看護教育，48(9)，782-785.
- 4) 松田亜由美他(2015)：臨床実習に活用できる実践的医療安全トレーニングの検討“RCA+シミュレーショントレーニング”で実習オリエンテーション，看護教育，56(7)，646-651.
- 5) 松澤明美他(2017)：看護基礎教育課程における小児看護学シミュレーション

教育の課題：文献レビュー，日本看護科学学会誌，37，390-398.

- 6) 伊藤久美他（2001）：看護系大学における小児看護学実習の実態—安全対策，教員の負担や困難，実習評価について—，日本看護学教育学会誌，10（4），11－19.

## A Literature Review to Identify the Challenges of Medical Safety Education in the Pediatric Nursing Course

Katsuko Okimoto, Yuko Amino

*Faculty of Health and welfare Science, Okayama Prefectural University*

### **Abstract :**

**Objective:** To develop overall perspectives and identify related challenges, a literature review on medical safety education in the Pediatric Nursing course was conducted.

**Methods:** Web searches were conducted using the Ichushi Web, CiNii, PubMed, and Science Direct databases, with the following keywords: “pediatric nursing”, “pediatric nursing course”, “accidents”, “accident prevention”, “incidents”, “near-miss”, and “risks”. Manual searches were also conducted to investigate the references used in the identified papers.

**Results:** There were 38 domestic but no international papers on medical safety education in the Pediatric Nursing course. These papers described: <devised lecture styles and pre-clinical and clinical training methods>, <students’ recognition of medical safety>, <nurses’ recognition of medical safety awareness among students>, <the results of near-miss analysis>, and <training facilities and other environments to train students>.

**Conclusion:** The development and use of appropriate medical safety education programs exclusively for pediatric nursing and scales to evaluate their effects may be a challenge of such education in the Pediatric Nursing course.

**Key words :** Pediatric Nursing course, medical safety education, incidents, near-miss